

工芸

応募点数	76点	招待作品	18点
入賞点数	7点	展示点数	90点
入選点数	65点	移は移動展出品作品	

(総 評) 工芸的造形とは、素材の物質性を技術力でもって可視的な表現領域へと昇華させるという創造行為です。そのためには、作り手自らがまず素材と親しく交感を重ね、その物質性をよく知ることが大切です。この物質性を熟知するという行為のなかで、素材のもつ表現的可能性という潜勢力（ポテンシャルティ）が高められていくわけですが、これを自己の創作衝動と合一させる過程において、そのために必要な技術の開発や転換が促されていくのです。

このたび、初めて第47回島根県総合美術展工芸部門の審査をさせていただいて驚いたのは、応募作品に技術的な破綻を来したものがほとんどなかったことです。このことは作品の完成度が高いということと同じことではなのですが、前に述べた工芸的造形の表現活動の本質を理解したうえで、作り手の皆さんが自らの意志をかたちに成そうとしていることの証左だと思われます。

一方で、入選作品の居並ぶ空間にしばらくたたずんでいると次のような印象が持ち上がってきました。どことなくおとなしく控えめな感覚つまり静的な雰囲気の中に流れられていく気分です。

工芸的造形も、丁寧な仕事にばかり意を砕いていては、鑑賞者の感動を喚起するような表現力は発揮できません。技術の練度を向上させることは当たり前のことですが、それ以前に表現する意図の明確化を図る自己の内面での作業をより丁寧にするべきだろう。もちろんこれは、素材の物質性をより深く理解することにもつながります。そして、一つのかたちに自己の内面に潜む、いくつもの意志や情感を同時に反映させることの困難を真摯に受けとめるべきでしょう。繰り返しになりますが、工芸的造形は素材と技術に寄り添う造形思考に依拠する表現行為です。自己の表現意図に相応しい素材や技術かどうか、吟味し直してみることもたびたびあるべきことでしょう。

(文責 石崎 泰之／山口県立萩美術館・浦上記念館学芸専門監)

知事賞 移

じん だい すぎ ぞう がん もく さい は こ
神代杉象嵌木彩箱

ふか だ
深 田

まなぶ
学 (雲南市)

浮造で顕かにされた神代杉の柾目がなによりも美しい。その甲盛の蓋頂部から四隅へ下るにしたがってしだいに表れる精緻な稜線は、身部側面に象嵌で表現された幾何学的模様のシャープな印象とあいまって、作り手の冴えた現代的感性を想わせます。また内面に施した律動感ある寄木の構成が、本作品の美質をさらに魅力的なものへと高めています。

(文責 石崎 泰之)

金 賞 ⑨

紙粘土布貼「森の精」

松 本 輪加子 (松江市)

訪れたハワイでの巨大樹と邂逅が作品づくりの直接的動機だそうです。その泰然とした生命力へ向けられた憧憬の情や畏敬の念が、紙粘土という素材をとおして一躯の澆刺とした女性像に結実したのでしょう。たおやかな肢体の柔らかさや伸びやかな動きが、萌黄色のコスチュームの緩やかな襷やリボンでみごとに補強されています。

(文責 石崎 泰之)

銀 賞 ⑨

濃縹花器

内 田 和 秀 (松江市)

逆三角形で、広口の伸びやかな造形は、小さな底部とのバランスによって生み出される。光沢のないマッドな黒い釉（作者は濃縹とする）が量感を与え、表と裏の両面を飾る二本の文様が動きを感じさせる。

また、口造りにも工夫の跡が見え、魅力あるものに器にしている。

(文責 藤間 寛)

銀 賞 ⑨

木綿手紡絵紺絵羽「浜辺に咲く」

木 下 恵理香 (出雲市)

緯糸に手紡糸を使い、着心地のよい絵羽着物である。

藍染紺で浜辺の心地よい風に乗る鳥と、愛らしい浜昼顔が、爽やかな初夏の風景を思いだされます。

藍染の紺と白い紺が、清楚な艶気を感じられる作品になっています。

(文責 青戸 秀則)

銅 賞 ⑨

しのぎ手貫入紋大壺

山 田 正 彦 (松江市)

「しのぎ手」(同じ幅で上から下へ何本も線状にけずる技法)の技法の大壺で、本焼の折りの貫入(本焼の時に壺の釉の表面に細かなヒビが自然に入る)の入ったところに紅色の釉をにじませ再び800度位の温度で焼き、貫入に焼きつけてあります。

しのぎ手も少し幅広く螺旋状にけずってあり紅色貫入との違和感もなく非常に全体に力強く、どっしりと安定した型で、今回の優品の作です。

(文責 石飛 勝久)

銅 賞 ⑨

黄瀬戸釉幾何紋大皿

福 間 基 (松江市)

口径52cmの平大皿。作者の永年の独特な黄瀬戸釉である。昨年に続き入賞で、ゆったりと大らかな作であり、フリーハンドでの曲線に、指によるリズム感の銅の点。新鮮な、すっきりした作である。

(文責 福郷 徹)

南蛮焼締花器は、やきものの本来の素地と炎に生みだす陶器の力を感じます。作者が求めているものは、作為的なものではなく、陶器素材の本来の中から、素直な形を生み出してくれたものだと思います。この素直な花器に野花を挿してみたいものです。

(文責 多々納 真)

入 選

題 名	氏 名	備 考
灰釉大皿	江 村 一 雨 (松江市)	
黒茶盃	江 村 一 雨 (松江市)	
けやき飾箱	井 上 雅 洋 (出雲市)	
けやき墨壺	井 上 雅 洋 (出雲市)	
杉盆	南 波 隆 之 (松江市)	
榊造盛鉢	朝 津 賢 一 (出雲市)	
森は弾む	阿 部 兼 良 (出雲市)	
茶托 (松)	町 田 幸 雄 (出雲市)	
茶托 (黒柿)	町 田 幸 雄 (出雲市)	
木綿藍染絞り「やがて来る夏モンゴル」	三 宅 和 美 (広島市)	島根工芸連盟賞
ブドウ絵花瓶	陶 山 詠 司 (雲南市)	島根工芸連盟賞
榊造盛皿	川 西 建 次 (奥出雲町)	
飛びカンナ皿	高 宮 輝 好 (松江市)	
花入	鶴 原 智 央 (出雲市)	
花器	岡 田 未 鈴 (出雲市)	
花器	勝 部 早紀子 (出雲市)	
花器	馬 庭 美 紗 (出雲市)	
花器	土 江 香 奈 (出雲市)	
紙粘土彩色「頑固」	本 常 信 代 (松江市)	
黒面取茶碗	森 脇 凱 人 (松江市)	
水指火櫛	森 脇 凱 人 (松江市)	
紙粘土彩色「遠い思い出」	小 村 真知子 (出雲市)	島根工芸連盟新人賞
青銅四方皿	田 中 文 哉 (松江市)	島根工芸連盟新人賞
綿麻草木染織物	松 本 航 平 (松江市)	
紙粘土彩色「晴れ舞台」	田 中 寿喜子 (出雲市)	
木綿半巾帯地	高 橋 和 也 (松江市)	
紙塑和紙貼彩色「晴れの日」	上 野 幸 美 (出雲市)	
掛分皿	谷 口 博 教 (松江市)	
黒釉壺	古 田 廣 司 (出雲市)	
油滴四方大皿	古 田 廣 司 (出雲市)	
織部組向付	常 松 年 夫 (出雲市)	
梟模様皿	西 村 仁 伸 (松江市)	
肩衝茶入	須 藤 國 風 (松江市)	

題 名	氏 名	備 考
土瓶	山 根 誠 志 (松江市)	
黒緋襷花入	小 原 敬 貴 (松江市)	
重文「鮭」を彫る	平 埜 茂 彰 (松江市)	
我が家の食卓!? (鯛)	梶 岡 修 (安来市)	
ごきげんよう、花子と一緒に出雲路へ	梶 岡 修 (安来市)	
黄橙釉網目鉢	勝 部 進 (安来市)	
花器	河 津 研 一 (松江市)	
黄瀬戸釉輪花紋牡丹組皿	福 間 基 (松江市)	
角花入	永 江 妙 子 (松江市)	
躍進	高 橋 成 和 (松江市)	島根工芸連盟賞
型染「炎の花」	神 田 立 (松江市)	
焼締花壺	富 田 幸 雄 (松江市)	
来待白石釉抹茶茶碗	秦 弘 明 (松江市)	
赤楽茶碗	木 島 健 三 (松江市)	
出雲国のシーサー	松 下 純 子 (出雲市)	
錆絵染付鍛治文皿	板 倉 清 之 (出雲市)	
緑鉢	江戸端 實 (大田市)	
⑩ 黄瀬戸鉢	江戸端 實 (大田市)	
⑩ 土の証	中 尾 厚 子 (津和野町)	島根工芸連盟賞
ものやおもふ	藤 井 敏 子 (富山市)	
伊羅保釉四辺皿	漆 谷 保 子 (津和野町)	
⑩ 伊羅保釉両手皿	漆 谷 保 子 (津和野町)	
蜂	石 田 富 士 (江津市)	
⑩ 無垢寄木盆	渡 辺 登 風 (邑南町)	
⑩ 満開の春	佐々本順左衛門 (江津市)	
⑩ 彩釉壺	稲 倉 寛 (吉賀町)	
⑩ 灰釉掛け分け丸皿	螺 山 勝 實 (浜田市)	島根工芸連盟賞
筒描文土瓶セット	山 崎 三 仁 (大田市)	
⑩ 焼締茶器	山 崎 三 仁 (大田市)	
⑩ 鉢	中 島 一 夫 (大田市)	
⑩ 肥松盆	福 間 克 幸 (大田市)	
⑩ 花器	小 村 家 康 (浜田市)	

招 待

題 名	氏 名	備 考
出雲焼 竹の絵菓子器	長 岡 空 権 (松江市)	
⑩ 炆器 鼓動	三 原 研 (松江市)	
木照「六連花」	藤 原 正 (出雲市)	
⑩ 灰釉鈎窯花瓶	荒 尾 浩 之 (大田市)	
沈泥彩花器	犬 山 卓 也 (出雲市)	
銀緑菓子器	石 村 稔 (松江市)	

	題 名	氏 名	備 考
⑩	杉造拭漆盛器	濱 田 幸 介 (松江市)	
	藕糸着尺	青 戸 柚美江 (安来市)	
	鉄釉縁文大鉢	柳 楽 勝 重 (出雲市)	
⑩	広瀬緋着物「紫陽花」	永 田 佳 子 (安来市)	
⑩	壺「彩蕾」	福 郷 徹 (益田市)	
⑩	型絵染着物	黒 川 裕 子 (江津市)	
	呉須釉蓋壺	石 飛 勝 久 (雲南市)	
	紙塑和紙貼り「おぼろ月」	吾 郷 江美子 (出雲市)	
	櫛玉空盛器「悠～はるか～」	野 白 千 晴 (安来市)	
⑩	蓮弁水指	渡 部 良 和 (雲南市)	
	なまこ釉鉢	多々納 真 (出雲市)	
	スリップウェア角皿五客	福 間 琇 士 (松江市)	